解　説

第14章　　　　経済

景気観測

令和３年は持ち直し基調

　大阪府景気観測調査によると、令和３年の業況判断ＤＩは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済活動の制限もあり、第３四半期はやや一服感がみられましたが、その後は再び持ち直しの動きとなりました。

業況判断ＤＩの推移(前期比、季節調整済、製造業・非製造業別)



※業況判断D1(Diffusion Index)は、景況感を数値化した指標です。景気が良いと判断した企業の割合から悪いと判断した企業の

　割合を引いた数値で、「良い」だけであれば100、「良い」と「悪い」が同数であれば０となります。

[第14章1表より]

実質経済成長率

平成30年度はプラス成長を維持

平成30年度大阪府民経済計算によると、府内総生産額は、名目が40兆1,956億円、実質(平成23暦年連鎖価格)が38兆9,831億円です。対前年度増加率(＝経済成長率)は、名目が0.6％、実質が0.1％と、いずれも２年連続で増加(プラス成長)です。



経済成長率

大阪経済の変遷

[第14章7～8表より]

※「名目」は市場での金額を集計したもので物価変動の影響を含んだ値、「実質」は物価変動の影響を除いた値です。

※連鎖方式とは、実質化の指数計算において、前年を基準年として毎年積み重ねて接続する方法をいいます。

府内総生産(名目)と名目成長率、国の名目成長率



[第14章7表より]

府内総生産(生産側)(名目)における経済活動別割合



[第14章7表より]